

表：日本・韓国・中国の小学校英語教育の比較

目標	日本	外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。
	韓国	日常生活で使用する基礎的な英語を理解し、表現する能力を育てる教科として、コミュニケーションの基礎となる言語機能能力、中でも音声言語教育が主となる。文字言語教育は、やさしく簡単な内容の文を読み、書くことのできる内容とし、音声言語と連携して内容を構成する。
	中国	基礎的な聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと、および、英語の音声、イントネーション、語彙、基本的な文法等の学習をすること。同時に、児童の英語に対する興味の育成、積極的に学ぶことや英語を用いてコミュニケーションをする態度も育成する。また、中学校以降の英語学習を継続できる基礎固めをする。
導入方法等	日本	外国語活動： 必修 （5・6年生）週1回
	韓国	英語教育： 教科 （3・4年生）週2回（5・6年生）週3回
	中国	英語教育： 教科 （ 全学年 ）週4回（20分・40分を組み合わせる） ※【上海市】（1・2年生）175回×20分（3～6年生）280回×40分
（技能内容等）	日本	聞くこと、話すことを通して、音声や表現に慣れ親しませること
	韓国	3～6年生）聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと
	中国	1・2年生）聞くこと、話すことが中心 3・4年生）聞くこと、話すこと、読むこと、スペル 5・6年生）聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと
達成目標等（文字について）	日本	アルファベットなどの文字や単語の取り扱いについては、学習負担に配慮しつつ、音声によるコミュニケーションを補助するものとして用いる。
	韓国 ※抜粋	3年生） ●アルファベットの大文字・小文字を書くことができる。 ●口頭で習得した語彙を書くことができる。 6年生） ●語彙やフレーズを用い、日常生活について文章を書くことができる。 ●誕生日カードやお礼のカード等短い文を書くことができる。 ●例文等を手掛かりとして、自分や家族について短い簡単な文章を書くことができる。
	中国 ※抜粋	3・4年生） ●これまで学習した語彙の400語程度を全て理解し、発話ができる。 さらに、400語のうち、200語程度の語彙は 正しく綴ることができる。 ●ライティングの時は、正しい、大文字・小文字等を使用することができる。 5・6年生） ●簡単な英語の教材、漫画、図などを読むことができる。 ●教師が尋ねた英語の質問に対して、英語で書いて答えることができる。